



【マカオには世界遺産が 30 か所。なにげない街の風景にポルトガル植民地の文化と歴史が刻まれる】

久しぶりにマカオを散策した。

この風景もその中のひとつ。

午前中の明るい太陽を浴びてまぶしい住宅の壁、そのまへの石畳の広場の木陰にはベンチ。

油絵のなかにあるようなくすんだ南欧建築のたたずまいである。

そこには集っていたのは、買い物帰りの近所のおばちゃんたち。

広東語での談笑が途絶えると、暫しの静寂。

そして、今度は女子中学生のグループが、ジュースを片手に座り込み、はしゃぐ。

ここは、マカオにあるユネスコ世界文化遺産の一つでもあるリラウ広場。

そんなこととは無関係に、この場所で育まれてきた人々の暮らしがずっとずっと昔からあるのだ。